滑稽

全入

忠臣藏偏癡氣論（ちゅうしんぐらへんちきろん）

式亭三馬 作著

下

特 遠 へ 13
2414
2冊

へ13
24/4
2止

赤倉運書

忠臣藏偏癡氣論下

式亭三馬再校

大正五年青山學院
室井平藏氏贈

○戸無瀬と女でゝ俳ぶ始なるとゝ紙ちらゝぶ。ちらゝ花車ら。仲居のまり上りまら。女郎の果ら。扨りて結の始ゆてゝある事ゝ。判文ようか孫使者の長。小浪ゆ左沢させんとて。らゝろて技をおこし。アイタ。あつと哀著

の奥さまの家をあらしてぞ奥へもぐ。これ物の
るぞや。ふうき者う花車風の粋ぶて。武士
の女房いかゝたゝらんぞ。らうぐ判なうり
ゝ狭ゝゆゑへ大切の使者。亀来の女房
の名代さくいうぐしきさま。小女ゝ名代がとるゆ
えなつぐ。使ぶ。中一使者へ対しての失礼。二つ
わゝ狭ゝゆゑ屋敷の風俗。自腹落ゝ
ゑえて外聞わしゝ。使者ハ云号の

播ゆもせよ今日ハ表向の使者なれば。たゝハ
たゝゝぬ装。狭ゝゆゑ小身うりとも。玄関
番。名代役人などあるべき筈。ゝゝ狭ゝ
ゆ。吹のさくしとゝて一間をかけ出。力弥ゝ対面
する。町人めきて腰ゝ拵ぐし。まハさて。
戸ゝ敷ハ小波を連て山科へ引ての大不出来
さるるゆなるゆ一ゝゝ十ゆで不届なる
変。一くかぐるゝ遑あゝぐと。ゝハ九時

同の仕うちをえのよべし。

○小波

こまへ編なし

○かゝよ御前

初限義貞の兒を嗅あてゝるる。さのゝヤンヤと
りよあどの夏ゆもあらうだ。扨忠臣藏の騒動
へかゝるのあさちゆる発生り。たゝへ師匠
ゝ体の哀慕ありしも。小夜衣の古哥あて

和しむるるへ。ゆるゆるふたゝらへべきをたゝへ
なくて夫判友大切なる役目の當日。さぐく
草文おゝへて夜中ふ持ち参り。生死一刻
あへ万事師範ゝる師匠へ。あてとさりの哥
をえせけしへ。後をとりねぐりの仕
方。扨く了簡すき女子。夫判友を大切ふ
思ふ。密夫ゝるこそゝるゝ。師匠をあやゝし
あきてけ交の役目万端瀉ゝるゝへ。おんべいを

さるがよし。それ貞女の道を知て。行を知らざるなり。

○早野勘平重氏

勘平八人を殺して金紙を奪ひ。大盗賊と。後日ふことを知の敵とうかゝるゆゑ。殺せしかども。殺せし時八真の間。旅人を殺し金紙奪ひ取遣なり。是大賊の證拠なり。そもへさて亀。宿取へうをみる時。男与一ふ人ふ殺されさて。

戸板ふのせて持来るふ。いろふ我殺しと雖文ふ合べて。彼の男死骸をあらためんざるや。拵て殺しふふ遣べ。でんそん死骸ふ見るとも。一番ろ殺ものとろを述て。其後ふ切腹せざるやよ。男八横死ふもせよ。病死ふもせよ。そもなりふ向もせぬハいろのゑぞや我家の飼犬でも引んごと歩べ。人ふたゝられて死ごろ。番木鼈でも食みるろ。切

きてもろこぐろ。扨でも付さること。一度へんこでけて
うら。ゑ拾さるゞ人情すう。いうんぞ男の死骸
とあるゝゝあんざうや是則殺施疵ゐあるゞれ
べ切殺ゐもちよたねるすう。不念の至といふ
べし。かゆうゑ麁相者。ゆゑ敵討の仲ヶ間ゐ
へべき。そう初手人判皮大切の役目紙紮う。一世
一度の晴の登城。そう供先ゐて女ゐ戯れ足利
直義ハ幡宮社系の陣所と稱し。あるうえ

うえ人判皮ゞ大切の物ゐも有合さゞ。狼狽
ゐうて切殺せんと考へしへ。あるるゐ驚よと
いうねたうのこせうけこ。案のごくえより
殺ハ切うねまきれべ。女の吉紙ゞゐやと
すう。今物より女の紙置へ垂紙しへ刺る
腰拔すう。但し一門一家もすさ身する紙
又ハ祝儀ゐ新向もすうねとらゐ心ゐやすう
とても仕方のあるべきこ。扨猟人となり

夜山に出。古傍輩の千崎弥五郎に出合
面目なきの例のなるに。用金紙綱人まと
かふ作法なりと云かたらふ成て。出来もせね
金の支覚に男まで紙他をふうけ。不忠不
孝限りなきの奴なり。たゞのまなるべき衣服
とるるに。世にあるし付を人より拝領し
る定紋付の時絹と。たゞくふ社を。
平服として山野を蔑ろ。大切なる人の

定紋と猪猿の血汐にあて猟し。臭く猟しき
匂ひに触るる。不敬警んなり。六月廿
九日の夜。猪とも止て山鯨店へ毛用
なるさ汐なれば。肉は癖を抱ひて皮だけ
の直段なるべし。変らぬ素人なさを。
但し家の毛は夏毛とりて秋美なる
ゆえ。猪も夏毛は能ものや。我に手毛に
あらざれば。そとなれば。旦火縄を振て

猫ハ逃づる。火縄と消とりふる獵人ハ
似合ざるゆ。其うへ殺絶ゆて二ツ三ツ擲き
うるゑ。猫ろうへ間ゆもうるべきと。縄
捩して見ると。初て旅人と弓射うへき
つい狼狽ゆう也。コリヤ旅人某ハ何と曉中
とさぐると大癡呆。二ツゆて歩止るゆゑ
其ハさて置。百什つゝとも獲題るゆ
あるべきや。効平かゝ中でうるゆゑ。ゑて

ハあるる金戰布。天の与へし扨戴きしハ
いうゞ。世のたとゝハも天道人教さぐとゝ。
去るとゆゑ。人と教し金紙をとゝふ天道
どこの出ハ知あるべき。扨彼戰布を曉中し。
猪より先へ逸散ハ蒐出でゝ一日三十里の
早道の達人なるゆ。実ハ泳ゆ名ハ別し
ゆう歩も後拾更ゆう。且泳ゆ命もいそぐ
歩道のゆなきべ。遥ハ切のべるべき。

其後のうちに退去て。彼の十あと用金に
渡し。後にて宿元へ引きべ。ちうるが身責
のかつさかつさ。其時一文字屋の亭主が曰
ちれが去て居るに単物の。縞の裁で拵くさ
金紗布。と絽拵と変まう。我懐中の縞の
紗布と又ちうべての伝天。まず身一益ゆも立
ぬ虚賊布と。懐に拵て居るが馬庸律義
なり。支友毋親に又付らき。紗布を引出し
てのお擬。一く兼相人なる男。家初縁会
の強勢に狼狽。又紗布六月廿九日より。
今日七月朔日までうろうろ。揚句の果に
大死しるやうぐ者。血判させて義士の仲
間入加くしんぺ右衛門あ人が越後なる
べし。按ずるに足利学校時代の後絶。
弓ふてあるべし。文学の強まる秋。又後世の
杜撰歟。後人よろしく可考。又曰治郎天窓

赤おの金。當世樣の長羽織。そのうちとしさ
祇園の揚屋などでてる氏時代の物とも
賞えんぞ。見又杜撰ふし。その外勝計きべ
うぐぞ。

○鷺坂伴内

伴内ハ忠臣義中分一の忠臣。旦夕師直ハ近
侍して一も心ハ遠ハず。竊ハ妙計を以九を夫
とすづけ。深く敵中ハ入て大星が測底を探る

志ろのこうぐぞ師直完後の附属ハ粉骨
碎身して忠戰どるしハ不ともかくぞ其場ハ
て討死しるハ遠忠臣。義して不違。労して不
怨。能ゑ紙知るとりふべき也。但しおろふハ急墓
のるハ伴内とりくども木竹でハう男のあさ
ア主人尤の支うう

○おかる

おちゆうぴいのおてんだ女とハ。此おるとさて

いへべきすりかをよれば。小夜衣の古歌と書
師走人勝うんと考へしが混雑の中召遠ふ
まいものでもはマア今宵いよいよせうとあひ
とおかるゝ勅平ふ逢ときゝ給のマアけふ
の一首や二首れ留なさゝわどの召のあいる
いあるまいとむりやりふさゝめ。夜中をいつぞも
女の身ふて打ゆ一人を供ふ連れ。ばひ一走ふ
ちつて来さア去んどやと勅平を撰目でえ

ながら吐息つく光景。淫婦の面の憎さ。此奴
が今宵文箱を持て来ざへ。判友の身ふ別條
いあるまじきふ。是非もなきへ色の乙之。そ上
勅平が家と云て。一すくと後掛へ引連行
勅平が武士紙捨さゝも皆是かるが罪
なるまじや。此夜勅平と体内と急所の間ふ
ちくるとたがひふあらそへ。男ぶりを見るふ
勅平へ色生白く。我ら細葱とらへ私の痩

夫壁へば小性上りの寺侍の如き弱冠男と。
夫ふ引ふ。体内ハ色黒く肥脂付苦味あり
て天晴武士めきたる男なれども。ちゝ紅ぐ
性質。馬の衣装て肩さる百性の姿ゆゑ舎兄
や伯父の色の黒きに又倦されば色変の
年をとるゝど。弥ふ〳〵感心な浮虚者ゆて。
色の白い痩まを。年の色男と古風ふ
さ奴まれば男らしき体内を嫌ひて新年と

年さりの也。扨紀里ふ立ゆり。用金拵えの為
ゑそうふ二紀と相煩し。夫ゆもちらさど低園
町へ身を售ふ。一代の大出来也。夫より
一力ふて兄平右ゑつが物倍を吹。愁歎左
なぐら。其河ふ勿体ないの爺さんハ。非業の
死でもお年の上とハ。扨く早くあきらめ
るるゝ。是でハ爺紀の死ぶ紀。古古瓶でも
手破さるどの仏拵ふ吹えて。紀子の情合

玉簾し。まゐ引く。動年どのハ三十ゐるや
ゐらゞゐ引ぬるのハ。吟悲しゐゐ枯惜ゐゐ。
あひてさうゐでゐらゐのゐとハあまり片晨員
の愁歎。就中あひさゐるゐでゐらゐのゐとハ。
ゐゐるゐゐゐど自惚と綱と後尼とゐゐて
ゐく夏をゐゐゞ。ゐゐる人曰。ゐゐるゞ身を洗
しを貞女とゐゐべゐゐゞ。嬌礼放蕩の性癖
ゐれバ。好んでゐを責しものとゐゐ。退て

監るゐ。三日居續の空を良ゐゐゞ為体。家迚
の客とハえゐゞ。よゐて考ゐべし。

○大星力弥

厥の心を慰めんと獵会山の八重九重。
色く揺花を献ずるゐ甚不審ゐ。主人判官
ハ扇ゞ谷の上屋敷。大竹ゐて門戸を閉て
裳しき閉門ゐ。ゐゐるゐ獵会山の接を折を
ゐるハ。力弥ゐゐ。よし拝有とも

門と発越出入る。足利家を恐れざる不届のふるまひ之万一露顕せば人判皮罪不罪と言ねるる。惟まざんべみべらぐど。浪人して後疫中不祇園町へ哀用法ぐるる。月の入山科より一里半。息を切る蜂力弥が烏体。天窓を紫の帛紗包みて紅絹の脚半をたくる形容。甚らぐぢる死る。火事不遇る串童が。供不ぐきて参る。

が如し。げ不幸義が綱あるるる。紀不劣らぬ蜂力弥めが大だるけ。かる虚弱の性質。さるや疫付の時不備まば。安全の打物不立合ふとも勝負者よるべ。四又小波と源細云約束しるうへ。力弥が為ゆへ幸義へ勇まる。強るを強ぶ玉不よるるいらぐぞや。

宮初より力弥在宿のるるれば。かるぐ不むぐらしき元合不るるざるうちが。かけ出て

えさんざるや。一方へ舟。一方へ男。いづれも不怪我過
ぐありてもさるぬ大切のあんちを笑な
ぐら。爰ふさりこんで居るる志ふ指ちう。
本義が心底うちあらしさうん。たあらべ
ちて小波と妻拵りしるる其報ふ咲ひえぐと
し。けたぐひ妻しくく味ずび粧みべれども。
美軍者のるなれべ強て強ずぐ。はるにえ
助が九り雪の徑。力弥解拔て甚妙ちう。

父由良之助が日陰者の比諭。拵ゆて拙く
空中捨と散ととらべく

○原郷右衛門

人不媚諂ふ侍でちい。武士でちいなぐ吉
風なるとらて。當世をちらぬ吝嗇者。師匠
の音物も。國産の腐物。食つれもせぬ乾魚
など代賂ちゆ。師直が立腹さるも尤こ。
九ちまが曰。けな強勅の元をらべ。ちら

どのこうさの吝嗇。ちうざうう親をつ。面をちりめうさるまべ。かやうちうへ出来ずさうねと云云。是ハ九をまが金言なり。

ハ方ハ。人ハ編みハ武士でなのいとりハにの下ちう。是ハ開くりのなれば門もなしうを。開門もれ免さう〜吉事のれ親向なるで。ぬうまうまうまの例。又りや九をまハやりうりうまの例。九をまぶりハハ遠うを。々

右ハつう舌も乾うね間ハ判皮ハ切板しうり。

抜ぶるハ理ハ暗き男とええうり。其後浪人して弟が家ハ居移。動平切板の場ハ至りて。始終糸ハ弟が尻ハ付て口代要適ばれ出をを笑くハ。ちくばくけ金ハ縞の財布の紫摩黄金など〜洒落て。ま履の痛もかまつぶをる廉をはちうし。別てなる門に。糸ハ弟も同ど〜役者ハて。首ハををる代金ハ

年と勇の七七日四十九日や五十両。合て百ま百箇日の。追善供養吊いれよ。なぐく家内の混雑ともらひやうぞ。かけ合のか食料酒落とへ。俗まを下情ま通ぜぬるゆ也。

○石堂右馬之丞

什男毒ま茶ま茶もちゆうぬとええれば論ゑ

○山名次郎左衛門

心正直まて勇氣遅きゆ丞。後の内と法ひ沸へまぶちまけて去まひ。歯ま衣着せぞゆりこめて去まべ。ゆでさうなるとゆ氣性ゆう。切後の坊まて判皮ゲ失礼を外りゆる河一く理の当ゆう。旦夜付の坊ま至りて俳内と倶ま潔く付死ゆ

まへ通勇者ゆう

○斧定九郎

評するに足らぬ奴。云ひ与一云ふ事が嘘に
金子五四五十両の嵩張の紙布に入て
ある事で又をそろ〳〵る眼力。流石に血筋
あるそうなもの。されど剪徑と迄で落嘗
しに又下果する奴か九尺が面穿しめが。

○千崎弥五郎

殺炮疵あり似られども是は刀で云ざる
疵と。与一を殺が死殺を改て動平が寛
の難を救しに。あつを出来さり。其外にたち
と伯仲の間なれべさて不論ぜざる。

○猪

世に有ふまし〳〵猪と云形小く異之首小く
なる足二本へぶらとぶらさがりるのを
あて。後足二本あて蒐出せり。此後足人の
足に近し。其歩行に大さがりてかぶつ
テンテレツクテンテレツクの声あり。伺猪とりして

猪の種類なるべき歟獣屋ふ問へども未だ
本草家も未詳とらへ。伝のみもせよ開甚ざ
とう狩。よって考べし。

○百性与一兵衛

子の為ふ夜道をもらとつぞ。労して功なき
非業の死。忍ぐりるしんざ弘めて。勿体ない
ぐとさんい。非業の死でもお年のうくなどく
娘かかるふらうきてい一向うまうねりめ叶

あらとむべし南無阿弥陀佛。南無妙法蓮
華經。

○与一兵衛妻

劫年を眠ての河一く理ふ逼まて尤なり。
おもくまま婦なぐうう拾ひも拾ひ不幸の
くぐうう。就中此老母ハまと与一兵衛劫
年ふ死別も。拾ひ経の年ふ歩ハ不定めぞ
蒐あるくゆ名内へとて書つぞ。嬢あるる。

あへ生別き。牙一ワといふなり。けん。後かうる
尼とすりしゆゑ。俱ホ菴室ホ復ひくん
ちうぞ。

○一文字屋才兵衛

○めうおう弥八

○種筒島の六

○狸の角兵衛

右却のく論なり

○寺岡平右衛門

雁が飛べば秦亀もちぐんさとかう。強金へ主銀
三ケ月がる非人とすりて付狐くも。敵へ
用心者しるべ函書るる吟つぞ。遍狐と
ろひしが岡の釈をろひ出しさぐくとなり
とへ足軽お愈の了覚ろう。四十銀人の義士。
粉骨碎身してさへ付ざるホ。平右衛つ
一人。非人となるちるのるあて。ほホへべき

敵ハあらざる。其外論ずるハ是〻まで。小男者の悲〻さ。蟹ハ甲ハ似て穴ハ掘る。卓量小〻〻。

○矢間重太郎

○竹森喜多八

人足ちげき揚屋ハ入りて。湯舟入ハ立時候ハらんとでござるの。イヤ一味連判の者たち入せしめさど〻。あらう悔〻まで高ぐと罵る云分別。嫁菜一ふくのまぬるハ。雲ちの渡〻くあやまりハ〻ちへ。ちの裏うへを表裏の侍。是等ハ人ぞろきの一味同心なるべし。

○お石

お石ハ実ハ武士の女房なり。伺のたくみきろ〻て和〻らハ暴も茄つぶて。剛も吐ざる勢あり。戸弁術等ると同日の論ハあらぐと

○天川屋義平

義平は任侠なり和ほ倫なり。志ろしめの中もあるを。家老職の中に言そゆより婚礼とあるべき一類い多べきなり。礼物をうとて命ゞけのおもてをはやさねとの一言甚畏しうけぬのゝなりゝど進物を足めて礼をとる。什よりもなき非礼なり。町人の町人なる所以なり。

○大田了竹

吉かゝら移べなゝぬ志ゝりの娘と義平嫁よつゝ。二三年も連そゝうゝ。何の訳もらゝど釈了竹方へゝ訳亟。了竹も聟のるなり。姫の夏なり。捜なゝ一旦へあゝうゝ扨の。扨る知ゝ移べ仏弾ゝ。後日ほ聟義平ゝゝ移。る細をたゝぬ亟ども云ど。志ゝゝべいゝまで訳りゝ。ゝも迷惑なり。今までの事ほ引ゝ事べは。それも

なるべきいろそいろゐを考されぬるとの
未到へ自然の道理ふて了行ふをこしも
多理なし。まれくなるべ完初るる時訳を
正し。際なるものろ元ぬものろ。什二四の和
ふ出ず。流石了行老の医業もせるるる猛
の人物ゆ元学問も有。ろふ方のづるる優る
場所もありて。ん約角なしふ元りかくるる。
誠ふ温厚の君子とらんべ。世間什人を
そしる支謂なし

○おその
○よし松
○伊吾

論なし

忠臣蔵偏癡氣論　大尾

明治十五年八月三十日飜刻御届

著者兼版主　故人　式亭三馬
原版　東京府平民　江嶋伊兵衛
日本橋區通四丁目拾番地

出版人

東京芝三島町　山中市兵衛
同　銀座三丁目　山中孝之助
同　同　四丁目　山中北郎
同　横山町　辻岡文助
同　油町　水野慶二郎
同　馬喰町　荒川藤兵衛
同　同　石川治兵衛
同　通壹丁目　大倉孫兵衛
同　室町　滑稽堂

東京兩國橋　松本平吉
同　南鍋町　うさぎや
同　弥左ヱ門町　武田傳右ヱ門
同　通三丁目　小林鐵二郎
同　南傳馬町　鳶屋吉藏
同　浅草芽町　品川朝次郎
同　馬喰町　木屋惣兵衛
同　通壹丁目　伊勢屋金次郎
同　兩國横網　兒玉彌吉

孫〻堂出版滑稽戯作目錄

道中膝栗毛　十返舍一九作　東海道　十八冊
同　国　奥羽道中十五冊
道中膝栗毛　十返舍一九作　木曾海道廿五冊
同　国　奥羽道中十五冊
大略日々の斎（餅代）滑稽二日酔　十返舍一九作　弐冊
浮世教訓滑稽六あみだ詣　十返舍一九作　初編弐冊　二編弐冊　三編弐冊
馬耳説教滑稽大師めぐり　十返舍一九作　三冊
わらけぶくろ　滑稽餘史　曲亭馬琴作　壹冊
廓中掃除　同　作　壹冊
傾城怪談客物語　式亭三馬作　壹冊

一盃綺言 式亨ノ馬作 壹冊

忠臣藏編癖氣論 同作 壹冊

田舍芝居忠臣藏 同作 初編弐冊 弐編弐冊

狂言田舍操 同作 弐冊

流行麻疹社浮言 同作 壹冊

廓節用 同作 壹冊

辰巳婦言 同作 壹冊

同 紅頭巾 弐冊 編 同作 壹冊

四書京傳餘師 山東京傳作 壹冊

傾城觸 同作 壹冊

小紋雅話 同作 壹冊

契情買虎乃巻 同作 壹冊

青楼和孩新造圖彙 同作 壹冊

ちゝ(面草)ぐき 同作 壹冊

手ごなの婦方 媚妓結ぶるひ 同作 壹冊

閨房妓談 志げゝ千話 同作 壹冊

夜半茶屋積 同作 壹冊

青楼の世界錦乃裏 同作 壹冊

志ら川荘誌　東京侍医　壱冊

廓社大帳　同　他　壱冊

傾城買二筋道　風来山人著　三冊

彙軌本紀　高田金吾著　壱冊
仁庵嵐義孝校

自惚鏡　同　他　壱冊

媚妃地理枝　同　他　壱冊

遊子方言　田舎老人他　壱冊
多田之兼

南客文集　西川一奎著　壱冊

俗説物語　武鑑　他　壱冊
十返舎九校閲

舊觀帖　物茶式冊
式編式冊
式冊
式冊

東京

同　北畠茂兵衛
同　稲田佐兵衛
同　山中市兵衛
同　稲田源吉
同　小林新兵衛
同　丸屋善七
同　小林新造
同　穴山篤太郎
同　山中孝之助
同　山中北郎
同　うさぎや
同　博聞社
同　武田傳右エ門
同　牧野吉兵衛
同　牧野善兵衛
同　鈴木忠藏
同　森江佐七

東京

同　江嶋喜兵衛
同　柳川梅次郎
同　東生龜次郎
同　東生鐵五郎
同　小林喜右エ門
同　水野慶二郎
同　内藤泰次郎
同　出雲寺萬次郎
同　石川治兵衛
同　荒川藤兵衛
同　辻岡文助
同　内田彌兵衛
同　北澤伊八
同　松崎半造
同　浅倉久兵衛
同　岡村庄助
同　別所平七

東京　青山清吉
同　磯部太郎兵衛
大坂　柳原喜兵衛
同　松村九兵衛
同　前川善兵衛
同　前川源七郎
同　岡嶋真七
同　赤志忠七
西京　田中治兵衛
同　川勝徳次郎
尾州名古屋　片野東四郎
同　河瀬代助
同　梶田勘助
同　栗田東平
同　鬼頭平兵衛
美濃岐阜　三浦源介
同　水谷善七

美濃大垣　岡安慶助
同　笠松　玉井忠造
伊勢津　篠田伊十郎
同　松坂　本屋嘉助
同　山田　藤原長平
同　曽市　伊藤善太郎
三州岡崎　伊藤文吉
同　豊橋　高須又八
遠州濱松　落合清七
同　白木健二郎
同　掛川　大塚好五郎
同　見附　古澤良作
駿州藤枝　遠州屋安兵衛
同　静岡　佐藤俊平
同　廣瀬市藏
同　沼津　吉成壽三郎
同　小松浦吉

伊豆三嶋　関谷利右ヱ門
相州小田原　米屋忠兵衛
同　伊勢原　山田淺治郎
甲州山梨　内藤傳右ヱ門
武州横濱　吉川伊兵衛
同　深谷　酒井省吾
同　小野脩三
同　鴻巣　長嶋爲一郎
同　熊谷　松枝悦三郎
同　浦和　藤屋源作
房州北條　山下安民
上總茂原　松田屋清兵衛
同　東金　丸屋茂兵衛
下總千葉　多田屋嘉左ヱ門
同　野田　藤屋錠次郎
同　佐原　茂木林藏
正文堂利兵衛

下總水海道　江戸屋伊左ヱ門
常陸水戸　北澤安次郎
同　土浦　寺田新助
野州宇都宮　田野邊忠兵衛
同　椽木　小林八郎
上州前橋　遠藤善平
同　高崎　文心堂
同　桐生　竹内藤吉
同　伊勢崎　川木屋平吉
同　舘林　糸屋太吉
岩代福嶋　齊藤彦太郎
同　若松　森萬助
同　陸前仙臺　齊藤八四郎
同　石ノ巻　伊勢安右ヱ門
渡嶋箱舘　山口啓之助
魁文社

陸奥青森　池田吉助
同　平井客次郎
同　弘前　武田莊七
同　玉田平治郎
同　八ノ戸　浦山太郎兵衛
羽後秋田　本間金之助
羽前山形　市村五郎兵衛
同　荒井多四郎
同　八文字屋太左ヱ門
同　谷地　田宮五郎
同　鶴岡　地主文藏
同　上ノ山　萬屋利七
信州長野　西澤喜太郎
同　上田　池田政教
同　小諸　小山九郎兵衛
同　相場七左ヱ門
同　釜屋儀助

信州松本　高見屋甚左ヱ門
越後長岡　上田屋治八
同　鳥屋十郎
同　中村作平
同　小千谷　小林屋定吉
同　高田　室直三郎
同　本田勝太郎
越中富山　大橋甚吾
同　土井宇三郎
同　高岡　車平二郎
同　水野義三郎
同　福光　清水清左ヱ門
加州金澤　中村喜平
同　近田太平
同　池善平
同　八右ヱ門
同　大聖寺　深城伊三郎